

平成30年7月豪雨による土砂災害へ支援

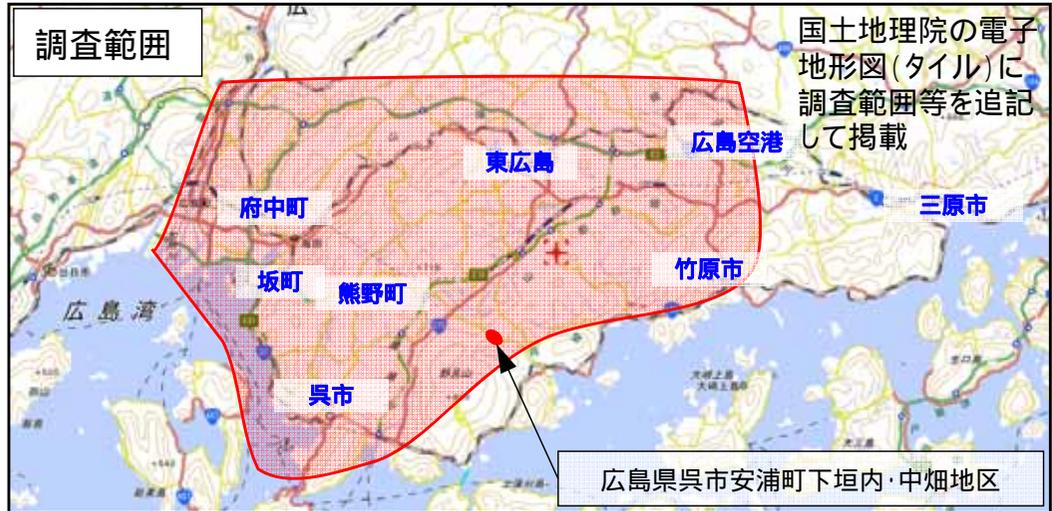


土木研究所
土砂管理研究グループ

土砂災害専門家（TEC-FORCE高度技術指導班）によるヘリ調査

➤ 平成30年7月豪雨により、土砂災害の被害が最も大きかった広島県南部地域において、土石流の発生源調査及び二次災害防止のための技術的助言を目的に、土砂災害専門家（TEC-FORCE高度技術指導班）による調査を実施。

- 調査実施日:平成30年7月10日(火)
- 土砂災害専門家:
国土交通省 国土技術政策総合研究所 土砂災害研究部
桜井 亘 深層崩壊対策研究官
国立研究開発法人 土木研究所 土砂管理研究グループ
藤村 直樹 主任研究員



土砂災害専門家による調査状況
やすうら しもがうち なかはた
(広島県呉市安浦町下垣内・中畑地区)



- 【記者会見でのコメント(要約)】
- 24時間雨量が400mmを超えた箇所に災害の箇所が集中。特に500mmに迫る箇所では、土石流・崩壊の密度が高い。
 - 災害の形態としては、平成29年7月の九州北部豪雨に類似し、山の至る所で崩壊が発生し、増水した河川水により下流まで流下し氾濫している箇所も見られた。
 - 現状では二次災害が直ちに発生するような状況ではないが、大雨が降れば渓流内に残っている土砂が流出する危険性は高い。
 - カメラによる監視体制の確保、河道に堆積した土砂の撤去、大型土のうによる氾濫防止対策などが必要と考えられる。



記者会見実施状況

平成30年7月豪雨による土砂災害へ支援



土木研究所
土砂管理研究グループ

土砂災害専門家（TEC-FORCE高度技術指導班）によるヘリ調査

➤ 平成30年7月豪雨により、土砂災害による被害が大きかった愛媛県のうち、今治・松山市の島嶼部、宇和島市吉田町周辺において、土砂災害の現況把握および今後の対応等における技術的助言を行うことを目的に、土砂災害専門家(TEC-FORCE高度技術指導班)による調査を実施。

- 調査実施日:平成30年7月11日(水)
- 土砂災害専門家:
 国立研究開発法人 土木研究所 土砂管理研究グループ
 藤平 大 上席研究員
 国土交通省 国土技術政策総合研究所 土砂災害研究部
 坂井 佑介 主任研究員



調査範囲

国土地理院の電子地形図(タイル)に調査範囲等を追記して掲載



土砂災害専門家による調査状況
(宇和島市吉田町周辺)



記者会見状況

- 【記者会見でのコメント(要約)】
- 愛媛県では全域的に48時間雨量が既往最大を記録しており、土砂災害が多く発生している。
 - 今治・松山市の島嶼部では土石流が多く発生しており、宇和島市では斜面崩壊が面的に発生している。
 - 今治・松山の島嶼部では崩壊深は比較的小さく、宇和島市ではやや大きい、構成する地質の違いに起因すると考えられる。
 - 土砂災害が発生した箇所およびその近傍では、その後の弱い雨でも土砂災害が発生・拡大する可能性があるため、注意が必要である。